

すべての女性が輝く明日のために

# JAUW 会報

第267号  
2019年7月



一般社団法人  
大学女性協会



## 特集 第8回定時会員総会

会長挨拶・全国セミナーご案内……………	2	2018年度国際奨学生報告会・「司法と女性」……	8
実行委員長開催報告・議事抄録……………	3	CSW63報告・2019年度国際奨学生の紹介 ……	9
記念講演会・研修旅行……………	4	親睦・収益・文化3事業委員会より ……	10
「支部活動について考える」……………	5	会員拡大委員会・会員委員会……………	11
第21回守田科学研究奨励賞贈呈式……………	6	70周年記念募金 お礼と報告	
受賞者研究概要……………	7	お知らせ～セミナー・観劇等催事・新入会員…	12
		2019年国内奨学生募集案内・理事会から	

# 伝統文化は平和への一里塚

会長 鷲見八重子



第8回定時会員総会は5月22日（水）日航プリンセス京都ホテルにて開催され、20支部から95名の出席および317名の議決権行使書をもって2件の議案の承認可決と報告事項が滞りなく終了しました。松田栄子実行委員長はじめ、高橋侑子支部長と支部会員の皆さまの見事なチームワークによる周到な準備のたまものと心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

総会に先立つ前日の支部長会では、支部会計と本部会計を分けての説明を試みましたが、複雑な法人会計の決算・予算の流れがより良くご理解いただけたと好評でした。

京都支部お心づくしの懇親会には、京都市副市長村上圭子様が友禅と佐賀錦のお召物でご臨席され、お開きまでお付き合いいただき望外の幸せでございました。また、世界的バイオリニスト森悠子様美しい演奏に加え、パリのノートルダム寺院炎上を目の当たりにされた、示唆に富むお話に胸を打たれました。

さて、2018年度の公益目的支出計画による事業は、第1から第4までほぼ予算どおりに実行されました。秋の公開シンポジウムには、文部科学省からお二人の来賓を迎え、100名の参加を得て、「教育・ジェンダー・共生」のテーマのもと、「誰ひとり取り残さない共生社会を創るために」をめぐる有意義な討議が行われ、皆さまのお手元に報告書をお届けできました。

奨学金事業も、内外を含めすべて順調に進み、守田科学研究奨励賞は20周年となり、過去の受賞者たちを迎え記念祝賀会を行いました。また、活動を再開した文化交流委員会は、日中平和友好条約締結40周年の関連で、東京フィルハーモニー管弦楽団の中国留学生支援事業に参画し、延べ130名を超える中国留学生に大変喜ばれました。

国際ネットワーク事業は、GWIの100周年記念ジュネーブ大会へ向けて、準備を進めています。全国支部から29名が参加予定で、理事会関連では、青木怜子コーディネータによる東日本大震災災害地支援事業の報告と防災ネットワークのワークショップを行います。

新しくスタートした新規事業、生涯学習委員会の「Jカフェ」は毎回、多彩な会員の活躍ぶりに目を見張り、大いに話がはずみます。詳しい報告をHPに掲載しており、またスカイプによりどこからでも参加いただけます。支部へ

の出張、協働事業なども計画中で、支部のご協力が欠かせません。積極的なご参加をお待ちしております。

法人関係では、年3回発行の「会報」が各支部の皆さまのご協力により広報の主軸を担っています。また、リーフレットの改訂版を作成し、新年度にはHPのリニューアルを予定しています。そして重要なお報告として、70周年記念募金が3月31日に期日となり、延べにして568名の方から821万6500円のご寄付をいただきました。深く感謝を申し上げますと共に、引き続き寄付口座を開いておりますので今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

京都総会は、さすがに伝統文化のかおり高く、大蔵流狂言師茂山千三郎氏の洒落なお話と実演に時間の経つのを忘れ、研修旅行で訪れた龍安寺、京都迎賓館、無鄰菴では、歴史と伝統文化の粋にふれ、おのずと心が洗われました。道々、様々な外国人観光客とすれ違い、古都は国際都市でもあることを実感し、改めて、平和であればこそ世界の人々と文化を分かちあい、理解と友好を深めることができることに思いを致しました。

JAUWのテーマ「教育・ジェンダー・共生」、ならびにジュネーブ世界大会の目標、「教育を通しての平和」へ向けて、支部アンケート・パネルディスカッションの成果と課題をふまえ、2019年度も支部の皆さまとご一緒に一歩前進となりますよう努める所存です。皆さま、何卒よろしくご尽力をお願い申し上げます。

## 2019年度全国セミナーのご案内

テーマ「教育・ジェンダー・共生  
—あらゆるハラスメントを乗り越えるために—」

日時：10月19（土）～20日（日）  
場所：埼玉県嵐山町の国立女性教育会館  
基調講演者：上野千鶴子氏

（ウイメンズアクションネットワーク理事長）

19日（土）：支部、委員会による報告や研究発表・懇親会  
20日（日）：分科会と基調講演、リレートーク、ならびにまとめの会を予定しております。

会場の収容人数が限られているため（120名）、本会報とともにお送りする申込用紙でお早めにお申し込みください。

※今後詳細はホームページ上でお伝えしていきます（毎月15日更新）。

多くの皆さまのご参加をお待ちいたします。

企画委員長 加納孝代

## 「時機を得る」と言えばよいのでしょうか

京都支部 全国総会実行委員長 松田栄子

京都支部で抱えていた健康問題などがようやく落ち着くタイミングを得て、総会準備に向かうことができました。令和になって初めての総会を、京都で無事開催できたことに、感無量の思いです。

会場の日航プリンセス京都は、ホテルの隣が自宅である松尾会員が日頃地域の活動のため利用しているため、担当者と密接に連絡が取れる幸運に恵まれました。ホテル3階はロビーを中心に各会場がすべて配置され、移動も見渡しもよく、会員同士の交流もしやすかったように思います。

1日目の支部長会には、東京から法務省大臣官房国際課の山下麻実様が2020年に開催される京都コンGRESの説明と参加要請に来られ、当協会の国際的重みを感じました。また、若い心に灯をともした東日本大震災災害地の高校生奨学金支援事業の完了を高田武子委員長が報告されました。

懇親会において、森悠子様は心に響くバイオリン演奏の合間に、ノートルダム寺院炎上を目の当たりした心の痛み、消火活動で尖塔は犠牲にしてもパイプオルガンをなんとしても守り抜いたこと、火事を起こした過失をとがめなかった市民の心意気をお話してくださいました。ゲストの村上圭子京都市副市長も最後まで食事を共にしてくださり、親しく触れ合うことができたのも嬉しいことでした。京野菜がふんだんに使われたお料理は、ホテル役員が試食してOKが出たもので、全国から来る会員のためにホテルが真剣に対応してくださった一例です。

2日目の茂山千三郎様の講演では、袴姿で狂言やお能の実演をまじえて、様式美をみせてくださいました。

パネルディスカッションは、自分自身が誇りを持って活動し、若い人を得るために、種を様々に蒔き育てていくという姿勢の必要性を強く感じたひとときでした。

3日目の研修旅行では、誰一人脱落することなく、長い距離を歩ききり、楽しんでもらえたようです。

様々な人と心を通わせ、直接そのエネルギーに触れ、元気という力をいただいた総会となったと思います。

次回、愛知へとつながるのを、楽しみにしています。



## 第8回定時会員総会議事抄録

日 時：2019年5月22日9：30～12：00

場 所：ホテル日航プリンセス京都3階ローズの間(京都市)

1. 総会成立確認：市川総務理事より2019年5月22日、午前9時30分現在の出席者数95名、議決権行使書提出者数317名、出席者合計412名を報告。正会員756名の過半数以上の出席により、総会の成立を確認。

2. 開会の辞：逝去会員8名の冥福を祈って、黙祷。次いで鷺見会長より開会の挨拶があった。

3. 議長選出：定款に基づき鷺見八重子会長が議長となる。

4. 書記選出：市川知恵子

5. 議事：

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：江原会計理事より議案書に基づき貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記について説明がなされた。続いて中山監事より業務及び会計監査の報告があった後、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された。

第2号議案 ホームページからの入会に関する件：ホームページからの入会申し込みについて、「会員の種別、入会基準等に関する規程」に盛り込む規程改正案が承認された。報告事項：①2018年度事業報告②公益目的支出計画実施報告及び監査報告③2019年度事業計画及び予算につき各担当理事が説明、縄田監事から監査報告があった。

6. JAUW 全国セミナーについて

日 時：2019年10月19日(土)、10月20日(日)

会 場：国立女性教育会館(ヌエック)

7. 会員拡大の件：森川会員拡大委員会委員長より2018年の秋田支部及び栃木支部訪問について報告があった。今後活動も継続して会員拡大を目指す。

8. 「70周年記念募金について」：創立70周年記念募金終了の御礼と感謝に続いて、当協会の将来の発展のため引き続きご寄付のお願いがあった。

9. その他：①次回総会は2020年5月23日、24日に名古屋で開催する。会場は栄の「ホテル名古屋ガーデンパレス」(私学共済)②鈴木理事よりGWIの「VGIF」ヴァージニア・ギルダースリーブ国際基金への協力の説明があった。以上をもって第8回定時会員総会は閉会した。

### 総会午後の部 公開講演会とパネルディスカッション

総会午後の部では、大蔵流狂言師茂山千三郎氏による公開講演会「日本人の笑い」が行われた。その後14時半からパネルディスカッション「支部活動について考える」が開催された。コーディネータ加納副会長のもと高橋京都支部長による全国の支部へのアンケートの報告に続き、パネリスト、堀内札幌支部長、渋谷仙台支部長、青沼福岡支部長、端本広報担当理事らの提言があった。意見を交換し相互理解を深めた。

記念講演会 「日本人の笑い」大蔵流狂言師 茂山千三郎氏

記念講演には、茂山千三郎氏のお母様と亀田会員が友人というご縁で千三郎氏に来ていただけるという幸運があり、総会2日目の午後、「日本人の笑い」と題する講演がおこなわれた。（報告：京都支部 松田栄子）

要旨

父の茂山千五郎は色紙にいつも「和らい」と書いていた。それは、誹謗中傷の混じった人をコケにする要素のないもので、狂言の笑いに通じるものであり、そのような上質の笑いの生まれる芸を目指すよう教えられた。

本質では同じであるが、関東では「粋」を、関西では「笑い」に重きをおく差がみられる。

狂言は、元々「猿楽」と呼ばれる野外演劇で、神社仏閣でのお祭りで奇襲的に現れ、大きな声で大衆の気を引き、報酬を得て生活をしていた。後にもっと工夫がなされ、舞、謡が入り「能」に発展していったと考えられる。

猿楽から枝分かれした能の題材となる物語は大半が「悲劇」であるのに対し、狂言は「喜劇」。能の後に狂言を配すことによって“シオリ”（悲しむ所作）を代表とする張り詰めた凝縮的な世界から“ワライ”で一気に解くという、緊張と緩和の関係が成立した。

写実的な演技に対し、能や狂言は様式的な演技“型”で演じる。感情表現のみならず動作にもすべて型があり、観

客のために作られた長年の集大成なのである。

型の中で重要なのが腰だ。膝を曲げて腰を落とし、その腰を立てることで、自然と胸が張り、美しく見える。腰を落とすことで下半身に“ため”と“準備”ができ、瞬時に次の動きに移れる。“ため”があると心に余裕ができる。



世界を渡り歩くと反応の違いが興味深い。ヨーロッパ型は、華やかなドレスで、クラシック音楽、オペラ的に鑑賞、アメリカ型は、Tシャツにドレスが混じり、感性が合わなければ途中退場、合えば、スタンディングオベーション。アジア型は、祭り。判ってくると途中でも拍手歓声、650年前の神社仏閣前の狂言再現の感覚。日本型は、静かに鑑賞、拍手が全国同じ。

狂言に登場する女性の8割が“わわしい女”でそれに従う男性というかたちができている。今後も自立した“わわしい”女性が男を従える姿をみて笑える世の中が続くとよい。  
注：「わわし」物騒がしく落ち着きがない【広辞苑】口うるさい【大辞泉】

研修旅行——古都の雅びと伝統の粋を訪ねて—— 京都支部研修旅行担当 島田洋子

研修旅行当日の京都は30度を超す真夏日の暑さになりましたが、タイトなスケジュールにもかかわらず、全員お元気で予定通り一日のツアーを楽しんでいただくことができました。49名の参加者の皆様、ご協力本当にありがとうございました。

京都は観光の見所も多く見学場所の選定に迷ったのですが、担当者4名で約一年前から検討を重ね、京都迎賓館をメインに龍安寺と無鄰菴を加えて、異なる京都の美しさを味わえる3ヶ所を見学場所を選びました。

当日はホテルを9時に出発、ベテランのバスガイドさんの説明を聞きながら二条城や北野天満宮を車窓から眺めて龍安寺へ。石庭鑑賞後は、青モミジと睡蓮の美しい鏡容池を巡って散策しました。御所近くのホテルでゆっくり昼食

を取りくつろいだ後、迎賓館へ。実は、迎賓館の参観は当日朝まで中止の可能性もあり気をもみましたが、予定通り実施出来ました。多くの方がタブレットで説明を読みながら、壁面を飾る織物や伝統技術を集めた調度品の一つ一つを熱心に見学されていました。最後の見学先無鄰菴では、時間の余裕がなくお茶を楽しんでもらえなかったのが残念でしたが、東山を借景に疎水の水を取り込んだ小川のせせらぎにしばし旅の疲れを癒されたのではないのでしょうか？

無事にツアーを終え、5時前に京都駅で解散。至らない点多々あったと思いますが、「楽しかった！」とお声を掛けていただき、良い思い出を持って帰られることを願ってお見送りしました。



## 意見交換「支部活動について考える」～全支部へのアンケートと共に～ 京都支部 木村恵子

コーディネーター：加納孝代副会長  
パネリスト(敬称略)：森川淳子(東京支部長・支部担当理事)、端本和子(広報・国際支援担当理事)高橋侑子(支部長・京都)、堀内満智子(同・札幌)、渋谷由美子(同・仙台)、青沼美撫子(同・福岡)



## I 趣旨—加納副会長

昨年、本総会開催担当である京都支部の提案テーマが「支部活動について考える」だった。その資料を見たとき、これほど多様な支部が全国に25もあるのは大学女性協会の財産だと感じた。そこで、支部のあり方を考えるのは意義があると考え、共通する意識、現状課題を取り上げることとした。

## II アンケートの解説—高橋京都支部長

昨年末に支部活動に関してのアンケートを実施。現実を見つめ、今後のヒントが得られたらと考えた。23支部から回答。実働会員42%、60代以上83%、70代以上62%と高齢者が会を担っているのがはっきりした。10数%の少し若い人たちとの関係や活動を考えることが運営課題。回答からは会員の知識欲、広範なネットワーク、奨学生との交流、サークル活動、行政の事業への参加や運営協力などへの評価がよみとれる。

## III パネリスト発表—①現状②悩み③対策

## 堀内札幌支部長

- ①会員20人。講座担当会員の逝去による収入減少
- ②会員数減少、高齢化、活動資金減少
- ③他団体の講師に講演を依頼し外部参加者に活動PR・JAUW名刺作成、積極的な配布・支部リーフレットで正・賛助を並記し会員募集・行政の団体に登録しサイトでPR

## 渋谷仙台支部長

- ①近年良かった活動は支部70周年記念誌の発行。公開講演会開催や本部事業である国際奨学金授与式等の代行
- ②特になし
- ③個人のペースに合わせて退会を防ぐ・高齢会員への会費会員依頼・公開講演会で500円を徴収

## 青沼福岡支部長

- ①29人(19人70代以上)例会参加者5、6人
- ②全国セミナーへの参加に経費が掛かるため参加者が少な



この会は講師については持ち駒がある(高橋)



広報で賛助会員4名入会(堀内)



70代は高齢者でなく、80代は働き盛り(渋谷)



市の派遣講師料は無料(青沼)

い。将来の支部長の担い手はいるが、今は言い出せない  
③会員が他団体の役員を担い、メンバーを勧誘・テーマを生活密着型にして敷居を低く・高齢会員には会費会員の継続を依頼・シニア無料の会場を使用・会員の講師にも謝礼  
端本理事…昨年度の分科会での案を踏まえて支部と本部の連携を探り、今後の実践に繋がればと考える・支部会員の本部委員会参加もよいのでは(ウェブでの遠隔参加等)

## IV 意見交換

資金について…会員への講師料はまちまち、受け取ってもすぐに寄付する場合も・会員の家族を講師に呼び経費節減をはかる・出身大学の講演会に参加・謝礼不要の学芸員の説明を聴く・会員が自治体の男女共同参画事業の講師となり謝礼を入金・支部として実態調査を受託し資金を獲得  
若手入会について…若手会員を意識した委員会・インターン受入れ・ユース部創設・調査研究に若手の協力を求める  
端本理事…子育てを終えた頃入会し、非常に楽しかった。自分の子供の様に学生を育てていける団体である事も一つの意義と考える。奨学金授与式の支部代行は良い案。  
鷲見会長…2004年に入会し、奨学金事業等に関わったが有意義であった。若手は忙しく大変だが、若いうちに少し関わり、途切れてもまた50、60代になった時に戻ってきてくれたらと思っている。のんびり構えて種をまき、一粒でも良い土地に落ちて10倍、100倍になればと思う。  
青木会員…JAUWも初期に女子専門学校の女子大学昇格に関わり、大きな力を発揮した。ぜひ誇りをもってこの会を支えて頂きたい。

## V まとめ

色々な方からまとめが提起された。大変多様性がある事や人生も長いスパンで取り組むべきだという事が分かった。しかしこれは一つの出発点に過ぎない。良いきっかけを頂いた事に感謝したい。

# 第21回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式



科学研究奨励委員会委員長 菅原 洋子

6月2日（日）第21回守田科学研究奨励賞の贈呈式と、これに引き続き祝賀パーティがアルカディア市ヶ谷会館において行われた。本年は、進化生態学分野の久保麦野博士と物性物理学分野の横田紘子博士が本賞を受賞された。

久保麦野博士は、東京大学理学部生物学科を卒業後、同大学大学院農学生命科学研究科生圏システム専攻修士課程、同大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程へと進み、2010年博士（理学）を取得された。生態学、形態学、自然人類学をバックグラウンドとし、ニホンジカを研究対象に、食性や生息環境と形態の関連性を探る研究は、ダーウィンフィンチの鳥の亜種の研究に対応し、哺乳動物の亜種の違いにつながる重要な研究である。大学院時代に、自身の研究基盤を構築するため、700以上のニホンジカ頭骨の日本全国からの収集に携わり、これらの標本を基に、現生ニホンジカの食べ物の種類と臼歯の形態変化の関係を調べて、臼歯の摩耗と食べ物の関係性を示し、ニホンジカ種内で臼歯の形態進化が起きたことを示唆する論文等を発表した。さらに多岐にわたる新しい方法論を導入しながら、領域横断的で独創的な研究を展開し続けておられ、今後も進化生態学的な研究課題に新たな切り口でチャレンジし、独創的な成果をあげていくと期待される。

横田紘子博士は、早稲田大学理工学研究科応用物理学専攻の修士課程、博士課程をそれぞれ飛び級で卒業し、大学院生活わずか3年で博士（理学）の学位を取得された。その後、早稲田大学理工学研究院や東京大学工学系研究科でのJSPS 特別研究員を経て、千葉大学理学研究科の助教となり、2017年より同研究科の准教授に昇任され現在に至っている。この間、強磁性体や強誘電体、強弾性体などのフェロイック物質を対象に、高分解能のX線回折、中性子回折、光第2高調波顕微鏡法などを駆使して、相境界やドメイン境界の新奇物性の研究を行っている。異なる相の境界を、単なる境目として扱うのではなく、境界であるがために発生する新しい現象（巨大応答）を見出し、そのメカニズムを解明することに大きく功績し、「境界科学」とも呼べる新しい学問分野を構築された。2015年には米国セラミック

ス学会から“The Spriggs Phase Equilibria Award”（各年一件のみ）を授与されている。イギリスやフランスへ何度も長期・短期滞在して研究を進めておられ、この分野の第一線で活躍する若手研究者である。

鷺見八重子会長は挨拶の中で、大学女性協会の成り立ちと本奨励賞および本協会が設けている奨学金について紹介され、また、日本における女性科学者活躍への期待を述べられた。賞の授与に続き両博士の受賞講演が行われた。久保博士は、ニホンジカを材料とした生態と形態の関わりについての研究概要をわかりやすく講演された。2010年に本協会の国内一般奨学生に選ばれており、今回の守田科学研究奨励賞受賞にひとしおの喜びを感じておられることに触れられた。横田博士は、物性領域研究の概要とその意義、また、自身の専門とされる境界がもたらす巨大応答について、わかりやすく示された。祝賀パーティーは、受賞者のご家族にもご出席いただき、終始なごやかな雰囲気に参加者の親交を深める会となった。

## 第22回 大学女性協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

**趣 旨：**本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

**対 象：**自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2020年4月1日現在）の女性科学者を対象とします。

**授賞件数：**年 2件 以内  
賞状および副賞50万円を贈呈します。

### 提出書類\*

1. 研究題目とその概要、今後の展望および抱負  
(A4判2頁以内)
  2. 推薦状（厳封）
  3. 履歴書  
記載項目：氏名（ふりがな）、(英字表記)、国籍、生年月日（年齢）、現住所・電話、所属機関（住所、電話、FAX、e-mail）・職名、(連絡先に○)、専門分野、学歴（高校卒から）、学位、職歴、賞罰
  4. 研究業績リスト（主要な論文は○を付記）  
記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
  5. 主要な論文5編以内の別刷り
- \*返却いたしません。1. 3. 4. は各15部、2. は1通、5. 論文別刷り（コピーでも可）は3部提出のこと。

応募締切日：2019年11月18日（月）（必着）

選考結果の通知：2020年3月

書類送付先・連絡先：一般社団法人 大学女性協会  
〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地 6-101  
Tel：03-3358-2882 Fax：03-3358-2889  
<http://www.jauw.org> e-mail: [jauw@jauw.org](mailto:jauw@jauw.org)

## 大型哺乳類の形態進化に関する 進化生態学・古生物学の融合

東京大学大学院新領域創成科学研究科  
助教

久保 麦野



古生物学的な事例から、草食有蹄類ではイネ科植物食に適應して、大白歯の大型化進化が起こったと考えられてきた。しかし、その生態学的なプロセスについて詳細は不明であった。私はニホンジカの個体群間比較により、草食哺乳類で繰り返し生じた大白歯の形態進化の背景にある、生態学的なプロセスの検証を行った。有害獣駆除などを通じ、私自身が日本全国から収集した、生態情報を携えたニホンジカ頭骨標本（17集団、600個体以上）を対象に比較を行ったところ、イネ科植物食は大白歯の磨耗を促進すること、磨耗が顕著になると寿命に負の影響を与え、そして大白歯の磨耗に応じた大白歯の形態進化が、ニホンジカ種内でも生じたことが示唆された。

島嶼の哺乳類には、特殊な形態変化パターンが認められる。特に、大きな動物は小型化し、小さな動物は大型化するという「島のルール」が有名であるが、島で生じる形態進化の生態学的なプロセスについて詳細は明らかになっていない。そこで、更新世の琉球列島に生息していた絶滅種リュウキュウジカを対象に、古生態を復元し、島環境でどのように生態が変化し、形態進化に影響したのか研究を進めてきた。リュウキュウジカの化石から死亡時の年齢を推定し、集団の年齢構成を復元したところ、著しく小型の体サイズ（約15kg）にもかかわらず、最長寿命は26歳と、同程度の体サイズの偶蹄類の2倍以上も長かった。これは捕食者のいない環境下で、長寿命型の生活史に変化したことを示唆する。それに応答してリュウキュウジカの歯は著しく高く、「長生きしても歯が長持ちする」という形態進化を遂げたことが示唆された。

現在は、化石動物の古生態復元研究の一環として、歯の表面に残される微細な磨耗痕の定量的な解析に取り組んでいる。微細な表面形状を三次元データとして収集できる共焦点レーザー顕微鏡を導入し、歯の磨耗痕の定量的な評価を進めている。共焦点レーザー顕微鏡は工学分野で材料表面の粗さ評価に用いられてきたが、生物学分野では近年利用が



が始まったため、現在でも世界的な研究拠点は限られており、アジアでは本研究室が唯一である。現生・化石哺乳類に限らず、恐竜類や海棲爬虫類など、これまでに取り組みまれてこなかった分類群について、磨耗痕からの古生態復元に取り組みたい。

## フェロイック物質における“境界”がもたらす 巨大応答と新奇物性発現

千葉大学大学院 理学研究院 物理学研究部門  
准教授

横田 絢子



高度情報化社会を迎えた今、生成された情報量はすでに保存可能な情報量を上回っており、今後ますます情報の肥大化が進むことが予想されている。このような現状の下、社会のニーズに応える為にはより小型で大量の情報を保存することができるような高密度デバイスの開発が求められている。一方で既存のデバイス開発は限界に近づいており、新しい視点からの取り組みが求められている。

私は、これまで見過ごされていた「境界」を利用することでこのような現状を打開することができるのではないかと考え、フェロイック物質に存在する境界に着目した。2つ以上の異なる物質の固溶体において存在する「濃度相境界」では、圧電定数や電気機械結合定数などの物性値が著しく大きな値をとることが知られていたが、この巨大物性発現の明確な起因については明らかにされていなかった。そこで、飛行時間測定法を用いた高分解能中性子回折を行うことにより、定説を覆す異なる結晶構造の「共存モデル」を考案し、それまで見つかっていなかった巨大物性発現に大きな寄与を果たしている構造が存在することを実験的に示した。

また、局所構造解析により、理論的に予測されていた巨大物性の起因である分極回転を初めて実験的に観察することに成功した。さらに、結晶構造に由来する内因性のみでなく、「ドメイン境界」などに起因する外因性も物性発現に大きな影響を与え、これらを実験的に区別することを目的に研究を進めた。時間分解X線回折を用いることにより、物性発現に「ドメイン境界」がもたらす寄与を定量的に評価する手法を確立した。このような定量評価は従来の手法では困難であり、今回初めて可能にした。

さらに、ドメイン境界がバルクとして物性に影響を及ぼすだけでなく、バルクとは異なる独自の機能性を有することを明らかにした。さらには研究を推し進め、外部刺激によりこれら機能性を有するドメイン境界を生成・制御できることを世界に先駆けて示した。

今後は、ドメイン境界においてなぜ機能性が発現するのか、その裏に隠された物理的理由を明らかにするとともに、デバイス化へ向けての基礎的な研究を進めていく予定である。



2018年度国際奨学生の研究成果報告会

国際奨学委員長 岩村道子



2018年度国際奨学生の研究成果報告会を3月9日に市ヶ谷アルカディアにて開催し、2名の奨学生が下記の研究題目についての研究成果を報告いたしました。

**DZINUN HAZLINI** さん（マレーシア出身。滞在先：名古屋工業大学 市川洋教授）：「光触媒を用いた排水浄化処理」  
**KM SURABHI** さん（インド出身。滞在先：東北大学材料科学高等研究所 水藤寛教授）：「流体力学的手法による血流の動態解析とその心血管疾患との関連」

**HAZLINI** さんの研究はマレーシアの主要産業である染色工場の有害な有機化合物を含む排水を環境にやさしい方法で処理する方法の開発です。有機化合物を光照射により水と二酸化炭素に分解する酸化チタン触媒の応用研究を市川研究室で行いました。酸化チタンを排水処理膜にコートする方法、光照射による有機化合物の分解効率などについての検討を行いました。成果は近く専門誌に投稿予定です。

**KM SURABHI** さんはインドの大学後期課程での研究を拡大発展させるために水藤研究室では慢性腎疾患における血流の動態解析を行いました。人工透析のため、シャント形成により閉塞・狭窄が起きてしまうことがあるので、その可能性を予測するための研究です。前腕部にシャントを形成した患者のCT断層写真画像をもとにして数値シミュレーションを行いました。シャント部分における血流の構造などについて成果が得られました。今後もしばらくこの研究を継続される予定です。

2018年度の奨学生は2名とも理工学系の研究者だったので、報告会に参加者は少ないのではと委員会としては危惧しておりました。そこで、滞在先の先生に誰にでもわかる平易な研究報告へのご指導をお願いいたしました。こちらの要請に応じて、**HAZLINI** さんには名工大市川研究室の大学院生張棲岩さんが同行して通訳をしてくださりました。また、**KM SURABHI** さんのパワーポイントには水藤先生が日本語で用語解説をつけてくださり、当日は穂田信子広報委員長が発表をよどみなく通訳してくださりました。突然のお願いにも拘わらずお引き受けくださいました穂田様に厚く御礼申し上げます。発表の後には非常に活発な質疑応答があり、参加者みなさまから今回の奨学生は非常に優秀で研究内容もよかったとのお褒めの言葉をいただき委員一同安堵の気持ちでいっぱいでした。

国際女性デー企画

司法と女性

国際ネットワーク委員長 山下いづみ

国際女性デーにちなみ、2月16日（土）津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス会議室にて、前法務大臣の上川陽子氏（静岡支部会員）をお迎えして公開講演会を開催しました。SP付きの講演会となり、準備の段階からセキュリティ対策を万全にするために、調整にあたってくださった津田塾大学同窓会事務局の方々には大変お世話になりました。29名が参加をしました。定刻より早めに到着された上川議員と談笑する時間もありました。

講演では、法務省の業務について女性の視点から語っていただきました。法務省のことは、普段あまり聞く機会もなく漠然としていましたが、身近な事柄になりました。

特に感心したことは、「法の支配」が重要であるということでした。法の支配によって多様性と包摂性に富んだ安全・安心で持続可能な社会になっていくこと。そして法制度、法遵守の文化があるからこそ、ひとり一人の人権が尊重されるということです。法律を創る者は国民が選んだ議員。そしてそれを運用していく者は個人、団体です。

日本は、途上国の「法の支配」の構築支援を行っています。他国では法律はあるけれど、それを運用できない国もあり、ミャンマーから法律を運用できるようになるために人材要請をされているそうです。

人権侵害は様々ありますが、法務省では、「子どもの人権SOSミニレーター」事業を行っており、これを通じて教師や保護者にも相談できない子どもの悩みごとを的確に把握し、学校及び関係機関と連携を図りながら、子どもをめぐる様々な人権問題の解決に当たっています。また、女性受刑者の再犯防止にも力をいれています。少年院にいる女性の60%は自身が虐待を受けた経験があり、この悪循環を断ち切るためには女性たちの心のケアと生活スキルを身につける支援を切に願います。また、法務省が進めている「外国人との共生」の施策づくりに大学女性協会が協力できるのではないかと思います。（大学女性協会の取り組み2018年度～2019年度シンポジウム「教育・ジェンダー・共生 ―誰ひとり取り残さない共生社会を創るために―」、2019年度は、外国籍住民と多文化共生の取組についての調査～親と子どもの教育問題をめぐって～）

最後に、上川議員が法務大臣時代、日本での開催を誘致した第4回国連犯罪防止刑事司法会議京都コンGRESSが2020年4月に開催予定です。ユースフォーラムもあり、ぜひ、学生等若者を推薦してほしいとのことでした。





## CSW63からCSW64へ

国際担当理事 鈴木千鶴子



国連女性の地位委員会（CSW）、今年の第63回は2019年3月11日～22日、UN Women（国連女性機関）が中心となりニューヨークの国連本部で開催、その間併走する形で世界のNGOsが本部ビル周辺会場で400に上るパラレルイベントを行い、女性に特化した世界最大規模の催しに沸いた。

大学女性協会から若手支援の長谷川舞さんと共に国際婦人年連絡会を通して参加資格を得、9日のユース・ダイアログのプレ・イベントのランチから22日の閉会会議まで、貴重な体験を堪能することができた。

2017年以来連続3回の参加を通して、CSWの魅力と意義はどこにあるのか、漸く自分の言葉で語れるようになったので、広く紹介したい。

先ず、CSWに参加すると、これまで長く日本の社会・文化の中で生活してきた私たち女性（少なくとも私）が薄々と感じてきた女性の地位の不当な低さに対して、いわゆるジェンダー先進国と言われる北欧をはじめ未だにFGM（女性器切除）の慣習に苦しむアフリカや中東などにおけるジェンダー不平等を訴える声に強く後押しされて、そのような自分の思いが世界共通の忌々しい問題であることに明確に気付かされる。そして、その課題に対する世界の国々ならびに女性たちの多様な取り組みを知ることで、翻って日本と日本女性の固有の姿（良し悪しによらず）が映し出される。このような客観的な考察を出発点として、自分が置かれた場や条件の中で、どのような方法で解決を図るべきなのか、また個人として何をどうすることが可能で最善の道なのか、悟れたような気がする。

この至福の瞬間、経験をできれば一人でも多くの女性、ことに若い人たちに是非とも共有していただきたい。ジェンダー格差の課題は、日本は勿論、世界の至る所に重く覆いかぶさっている非常に大きな問題である。従って、一人や二人で解決できることではあり得ません。また、長い慣習が大きな要因となっており、昨今の政界等の要人の失言を例に出すまでもなく、年長の世代の固定観念を変えることに期待は持てません。そこで、大勢の若手が意識を覚醒させて、一緒に取り組むことが切望されます。それは、若手にとって将来の幸せな社会を保障することに他なりません。

ことにCSW64のテーマは「北京+25」であり、四半世紀ぶりの包括的な取り組みで、一気に世界を変える好機です。大学女性協会は、有為な若手のCSW参加を支援することを通して、その一助を担えるはずです。全員で手を尽くし、7月15日から始まる参加支援への応募者の発掘に努めたい。

## 2019年度国際奨学生が決まりました。

国際奨学委員長 岩村道子

国際奨学委員会では、2019年度国際奨学生の募集を2018年11月中旬からJAUWホームページ上で開始し応募を2019年3月31日に締め切りました。その間、この制度に関して非常に多数の多種多様な問い合わせが国内外から寄せられました。最終的な応募者数は例年の2倍ほどの58名でした。5月5日に選考委員会を開催して厳正な審議の結果、次の2名を国際奨学生候補者として6月の理事会に提案して承認されました。



Ramu Shwetharani 博士（31歳）は、インドのジャイン大学ナノマテリアル研究所の助教で太陽電池関連の研究をしています。10月1日～2020年3月31日まで信州大学先鋭材料研究所の堂免一成特別特任教授の指導で、「光触媒を用いて水から水素を発生させる方法」について研究をいたします。



Zin Idd Idd Shwe 博士（42歳）はミャンマーの森林環境科学大学の准教授で専門は森林造林学です。10月1日～2020年3月31日まで京都大学大学院農学研究科の神崎護教授の指導で、「ミャンマータニンサリ自然保護区における絶滅危惧樹木種」について研究をおこないます。

## NGO CSW63参加報告

聖心女子大学文学部英語英文学科4年 長谷川 舞

3月9日～22日の間、CSW63に参加させていただきました。このように貴重な機会をいただけたこと、本当に感謝しております。会期中は国連内外で行われた様々なイベントに参加しました。特に、デンマークの育休・産休に関するサイドイベントが印象に残っています。デンマークでは父母の両方が子育てに関わるべきという考えが浸透しており、男性も積極的に育休を取っていることに驚きました。さらに、子供がいない人も税金が育休産休に使われることに理解があり、不満を抱かないそうです。男女平等や、国の未来に関わることなので、日本の女性だけでなく男性にも子育てと働き方について考えてもらいたいと思いました。

私は英語教員を目指しているため、今回の経験を教育現場で生かしたいと思います。ジェンダー主流化という考えのもと、男女格差や女性の貧困、性暴力の実態などを見てきて、教育を通して国民のジェンダー平等に対する認識を高めることが重要だと考えました。これからもジェンダーについて学び続け、教員になって、ジェンダーによる差別・偏見をなくせるような教育の実現に努めたいと思います。



事業委員会 —それぞれ頑張っています—

事業委員会は親睦、収益、文化の3委員会から成り立ち各委員会は委員長はじめ各委員総動員で活動しています。

まず収益事業委員会について。言葉どおりなるべく多額の収益を上げるべく、総会、新春のつどい、セミナー等でバザーを行うので買い付け、売り子と大忙しです。京都総会では皆様のご協力による大きな売上げに感謝いたします。恒例となりました各支部長からの地元のお菓子のご寄贈品は会員皆様喜んで買っていただきました。今回は青木元会長のご著書売上げの一部もご寄付いただきました。昨年度は文化事業委員会がスウェーデン大使館後援の音楽会の折にスウェーデン大使館訪問と食事会を行い多数参加いただきました。今年度は7月25日～28日迄スイスジュネーブで開催予定のGWI国際大会に合わせてスイス大使公邸訪問と食事会を6月18日に企画しました。

次に文化事業委員会について。今年度は6月21日（金）けやきホールで「初夏のアフタヌーンコンサート」と題し神戸のアルカディア芸術財団に演奏をお願いしました。なお次回のコンサートは12月3日（火）に開催します。

最後に親睦委員会について。「新春のつどい」は令和2年1月11日（土）京王プラザホテルで開催予定であることをご報告いたします。  
事業担当理事 藤谷文子

スイス大使公邸訪問と食事会

岡山支部、国際ネットワーク委員 宇根山素子

「第33回GWI創立100周年記念総会」がスイスのジュネーブで開催されるのに先立ち、「スイス大使公邸訪問」という心惹かれる企画に参加する機会を得た。6月18日（火）東京メトロ広尾駅に30名が集合し、まず、南イタリアのプーリア州にある小さな村の郷土料理を出すレストラン「アンティキ・サポーリ」で食事をした。野菜とチーズの美味しさが凝縮された料理とおしゃべりを楽しみ、参加者の交流を深めた。様々な話題に花が咲き、あっという間の時間だった。

スイス大使公邸に入ると、緑豊かな庭園に面した明るく、広々としたホールに、赤を基調とした美しい絵画や版画が飾られていて居心地がいい。ジャン＝フランソワ・パロ駐日スイス特命全権大使とユリア＝グシニナ・パロ大使夫人のにこやかなお出迎えを受け、お二人からスイスについてのお話を伺った。長い人道主義の伝統があるスイスには国際赤十字委員会の本部や国際連合ジュネーブ事務局をはじめとする多くの国際機関の拠点が置かれていて、2019年は国際労働機関（ILO）創立100周年の記念すべき年なのだそう。また、東京オリンピック・パラリンピックに向けたプログラムの一つ「スイスへのとびら Japan 2020」のお話も伺った。これから様々なイベントが開催されるとのことで、楽しみだ。最後に、大学女性協会を代表して、鷲見八重子会長・青木怜子 IFUW（現GWI）元会長・鈴木千鶴子国際担当理事が英語でお礼を述べ、収益事業委員長と事業担当理事が花束と版画を贈呈した。大使の「お庭でお茶を」とのお声がけで、松や笹を配した美しい庭園に出て、美味しいケーキやお茶をご馳走になった。庭に置かれた「スイスへのとびら」の前で記念撮影をした後、散会した。



初夏のアフタヌーンコンサート  
～ソプラノ、フルート&ピアノ 愛の調べ～  
神戸支部、文化事業委員 三木谷節子



6月21日（金）、神戸のアルカディア音楽芸術財団のコンサートが、代々木上原のけやきホールで開催されました。東京でのコンサートは初めてということで、地元出身の関係者も多く、

ほぼ満席の聴衆をお迎えして、まず寺本郁子さんの「さくら、さくら」のソプラノではじまり、中村八千代さんの華麗なフルートと爽やかな語りで、次々とソプラノ、フルート、ピアノの名曲が奏でられ、あっという間の2時間でした。

今回のコンサートは、JAUW 会員である中村さんと寺本さんが、1980年に設立したアルカディア音楽芸術財団がプロデュースしたものです。当時は、女性の財団設立は認めないと言われ、ご苦労されたそうです。今では地元芦屋を拠点に海外を含め、各地で演奏活動が続け、音楽の普及振興につとめておられます。また、視覚障害者にも生の音楽を楽しんでいただこうと、今回も4組の盲導犬と障害者、介助の方々を招待いたしました。

プログラムの中では、特に日本が生んだ天才音楽家と言われ、ヨーロッパでも高く評価されながら28歳の若さで夭逝された貴志康一（1909～1937）を紹介されました。「赤いかんざし」など、中村さんの解説でよくわかったと好評でした。これを機会に、皆様に貴志康一の魅力を知っていただけたら嬉しいです。また、新しいレパートリーとして、内田博世さん、高瀬扶紀子さんによるピアノの連弾でジャズの力強い曲の数々を披露されました。

ヨーロッパの香りを

～12月コンサート、ピアノ & バイオリン～

ピアノ：Yusk（長田雄資）、チューリッヒ在住  
バイオリン：山崎絢子、ロンドン在住

12月3日（火）14：00開演 於けやきホール  
曲目

ブラームス：バイオリンソナタ第1番ト長調「雨の歌」

ラヴェル：バイオリンソナタト長調

ベートーベン：ピアノソナタ第21番ハ長調ヴァルトシ  
ュタイン

シューマン：3つのロマンス第2番嬰へ長調

クライスラー：愛の悲しみ、ほか

## 会員拡大委員会

委員長 森川淳子

2018年度には、新入会員数が51名になりました。大変うれしいことです。皆様の入会のお誘いの結果と感謝いたします。

総会時に京都支部より会員数調査の報告がありました。どの支部も高齢者の割合の多い中、岡山支部ではバランスのとれた年齢構成になっています。勧誘方法を伺いました。「友人、同窓会、教え子の若い方々にお声をかけ、イベントをする時に手伝ってもらい、この会のことをわかっていただく。その結果若手も会員になっている。人と人、顔と顔のお付き合いが大事である」さらに「支部長は2年ごとにほぼ確実に交代する。人の輪が広がる」とのことです。

委員会では会員減少・高齢化により、支部の運営が難しいとのご相談を受け、栃木支部と秋田支部を理事会と委員会とで訪問。創立70周年記



秋田支部の方々

念DVD「JAUWのあゆみ」の鑑賞等、改めてこの会のことを知る機会になりました。シンポジウムの翌日には、本部事務所で支部長との懇談の場を設けました（出席6支部長）。さらに前進するため会員拡大のためのワークショップも開けたらと思います。

## 会員委員会

委員長 西田節子

支部と連絡を取りつつ、会員の入会、退会、支部移動など名簿の管理を行い、会員、会員数の把握など会員状況の確認をしていますが、会員の減少は否めません。

この度2019年定時総会で、ホームページからの入会申込みが承認されました。今までは会員の紹介、あるいは支部の地域活動により会員を通した入会申込者を理事会で承認していました。ホームページからの申込者は会員委員会から支部長に連絡・確認し、担当理事を通して理事会の承認を得る事になります。

2019年3月31日現在の会員数は789名、その内70歳以上の会員は427名、全体の60%を越えています。会員委員会では2019年度は傘寿(24名)米寿(13名)卒寿(10名)白寿(2名)百歳(1名)の方にお祝いカードを、91歳以上の方々へはお誕生日カードを、感謝を込めてお贈りする予定です。



## (一社) 大学女性協会創立70周年記念募金 お礼と報告

委員長 牧島悠美子

「創立70周年記念募金」へのご協力を有難うございます。事業としては2019年3月31日でひとまず終了とし、皆様へご協力のお礼と報告を総会開催のお知らせに同封させていただきます。延べ568名の方から821万6500円のご寄付をいただきました。ただ、目標の1000万円には届かず、今後会費収入の減少への対応、防災・修繕費等の積み立て、新しい事業展開のための資金づくり等、将来を見越して持続的な財政基盤確保が必要な状況です。そこで、理事会としては今後もこのまま寄付口座を開設しておき、いつでも会員の皆様からのご寄付を受けられる体制を整えておきたく、「創立70周年記念募金」の名称も継続して使用することにいたしました。

前号でのご報告以降、総会などもあり、2月1日から6月30日までの寄付延人数は103名、寄付金額205万7200円。2016年11月の開始時から、延べ595名、合計893万3700円の寄付をいただいております。心からのお礼と共に、今後とも是非引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、ご寄付いただく方法は以下の2通りがあります。

- 郵便払込／振替 00130-0-587701  
加入者名：一般社団法人 大学女性協会
- ゆうちょ銀行 店名 ○一九(ゼロイチキュウ)  
店番 019 当座 0587701

## (一社) 大学女性協会 創立70周年記念募金寄付者ご芳名

敬称略・支部別 五十音順 2019.2.1~6.30

(札幌支部) 堀内満智子 (秋田支部) 川上弘子 (仙台支部) 愛知絢子、松山寿美子、谷地森涼子 (新潟支部) 田中和子 (茨城支部) 牧島悠美子、吉田英子 (栃木支部) 糸井克、増渕民子 (群馬支部) 植原映子、岡崎朋美 (長野支部) 徳田節子、三田コト (東京支部) 江尻美穂子、海老根静江、加藤恵津子、窪田憲子、後藤晶子、後藤英子、佐々木洋子、鈴川佳子、高橋真理子、竹中はる子、田中紀子、辻英子、富井明子、二木睦、西田節子、廣田貞子、藤川真理子、藤村久美子、堀口裕子、松崎和子、松田栄子、松村美枝子、望月浪江、山下順子 (神奈川支部) 板倉敬子、柏木京子、鷲見八重子、田中正子、丸山若重 (静岡支部) 山下いづみ (愛知支部) 林依里子、伴紀子 (福井支部) 西川清美、山田由美 (京都支部) 稲葉カヨ、大久保美加子、勝目さや子、亀田和代、久保宣子、佐藤芳江、高橋侑子、中川慶子、中島伸江、中西久枝、松田栄子 (奈良支部) 武久文代、疋田洋子、堀井擴子、森田由躬江 (大阪支部) 金村恵、北村美佐子、森田昌代 (神戸支部) 唐島幸子、東條喜代子、野村君代、宮坂富佐子、山本道子、米澤淳子、和田則子 (岡山支部) 岩城登美子、大倉美恵、梶谷貴美子、近藤みち子、矢吹真弓、吉見泰江 (広島支部) 山手万知子 (大分支部) 内田芳子、江崎一子 (熊本支部) 岡本美和、武宮公子 (福岡支部) 井上洋子、福岡支部会員一同、榊谷紀子、和栗方子 (長崎支部) 梅田和子、加納孝代、千住恵実子 (賛助会員) 江波諄子、水野達夫 (一般) 平戸邦明 (匿名希望) 2名

2019年度全国セミナーのご案内

テーマ「教育・ジェンダー・共生  
—あらゆるハラスメントを乗り越えるために—」

日時：10月19（土）～20日（日）  
場所：埼玉県嵐山町の国立女性教育会館  
基調講演者：上野千鶴子氏（ウィメンズアクションネットワーク理事長）  
※会報のP2に詳細を掲載いたしております。  
※今後詳細はホームページ上でお伝えしていきます（毎月15日更新）。  
多くの皆さまのご参加をお待ちいたします。  
企画委員長 加納孝代

観劇のお知らせ 収益事業委員会

9月22日（日）文楽 於：国立劇場（小劇場）11：00開演  
「心中天網島」近松門左衛門作 申込み締め切り：7月25日  
2020年1月19日（日）雅楽 於：サントリーホール  
詳細は後日 申込み締め切り：10月初め  
※詳細はJAUW ホームページまたは事務所でご確認ください。

留学生との交流会 文化交流委員会

留学生との交流会を開催します。  
9月14日（土）11時30分～留学生との昼食会（レストラン Le Rire）  
13時から作家・林望氏の解説と狂言と能の鑑賞会  
於：国立能楽堂  
狂言「船渡聲」茂山忠三郎（大蔵流）  
能「錦木」廣田幸稔（金剛流）  
☆鑑賞後、能舞台見学と能面を実際につけてみます。林望氏と記念写真  
会費6500円  
11月23日（土）「江戸時代の食についての学びと体験」  
講演：江原絢子氏（食文化研究者、東京家政学院大学名誉教授）  
安部憲明氏（楠公レストラン総料理長）  
於：楠公レストラン  
※申込みは事務所まで。詳細はHPをご覧ください。

お知らせ 神奈川支部

神奈川支部では国内奨学生やその候補者を招き勉強会を開いています。次は、神奈川大学の阿盈娜（ア・インナ）さんから遊牧民の食文化について伺います。  
日時：2019年9月28日（土）12:00～14:00  
場所：かながわ県民センター1503会議室（横浜駅西口）  
会費：500円 定員：30名（先着順）  
申し込み先：神奈川支部(jauwkanagawashibu@yahoo.co.jp)  
※多くの方のご来場をお待ちしています

新入会員 理事会承認 2019年3月～6月

仙台支部 池田 由美 東京支部 久保 麦野 東京支部 横田 絢子  
東京支部 香川せつ子 神奈川支部 富田伊津子 神奈川支部 日向美砂子  
神戸支部 本多 利子 岡山支部 尾崎 玲子 岡山支部 青木多寿子

訂正とお詫び：  
会報266号8ページの「第17回自然科学講演会報告」の講演者のお名前に誤りがありました。大島まり子（誤）、正しくは、大島まりです。慎んで訂正しお詫び申し上げます。

2019年度国内奨学生募集のご案内

一般社団法人 大学女性協会 2019年度国内奨学生募集要項

- I 応募資格
- 一般奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、学業人物ともに優れた者。
  - 社会福祉奨学生 文部科学省の認可する大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優れた者。
  - 安井医学奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業人物ともに優れた者
- \*備考
- ・経済的理由は、一切問わない。
  - ・1大学から各部門1名ずつ応募することができる。
  - ・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再度応募することはできない。
  - ・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること。
  - ・在籍年数に休学期間は含まない。
  - ・翌年2月末日に、現在の大学に在籍であること。
  - ・秋入学の学生に限り応募年の10月末日時点で上記資格をみたしていること。
- II 支給額および募集人数
- 一般奨学生 大学院生20万円 6名
  - 社会福祉奨学生 学部生10万円 大学院生20万円 学部生、大学院生合わせて3名以内
  - 安井医学奨学生 大学院生30万円 1名
- \*備考
- ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
  - ・奨学金は1回限りである。
- III 提出書類（下記(1)、(2)、(3)、(4)、(6)はホームページからダウンロードして使用のこと。6月中旬掲載）
- (1) 履歴書・自己紹介書（写真貼付）
  - (2) 一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書  
・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。  
・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
  - (3) 研究・勉学の内容について  
・大学院生は様式A  
・学部生は様式B
  - (4) 研究業績リストおよび社会的活動  
・大学院生のみ
  - (5) 学業成績証明書  
・在籍する（直近に在籍した）大学院（学部生は大学）のもの。
  - (6) 身体障害状況報告書と身体障害者手帳の写し  
・社会福祉奨学生のみ
- IV 応募方法および締切り  
応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。  
大学は一括して2019年8月31日（土）（必着）までに、支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を提出すること。
- V 結果通知  
選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2019年11月末日までに通知する。
- VI その他の留意事項
- (1) 一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2021年3月31日までに本協会会長宛に「研究成果報告書」を提出すること。提出のない場合は奨学金の返還を求められることがある。
  - (2) 国内奨学金贈呈式は2020年1月に東京において開催の予定。（詳細は後日通知する）
  - (3) 不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。  
本部 e-mail kokunaifellowship@jauw.org（国内奨学担当）

理事会から

- ▶ VGIFへ、今年も総会で寄せられた77,777円を6月4日に送金、JAUWからの寄付総額約84,000円になります。
- ▶ GWI ジュネーヴ大会「平和は教育から」カンファランスで、JAUWから4件が採択され大会を盛り上げます、発表される青木怜子、高田武子、穂田信子、平田恭子、鈴木千鶴子会員のご健闘を祈念します。
- ▶ 芦屋市長に神戸支部会員の伊藤舞さんが激戦を経て、当選されました。
- ▶ 事務所の夏季休業期間 8月10日（土）～8月18日（日）

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101  
電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889  
http://www.jauw.org E-mail:jauw@jauw.org  
発行人 鷲見 八重子 編集責任者 穂田 信子  
発行日 2019年7月23日